

平成30年8月31日

浜田市議会議長 川神裕司 様

総務文教委員会

委員長 野藤 薫



総務文教委員会 行政視察報告書

下記のとおり、視察を行いましたので、その結果を報告いたします。

記

1. 期 間 平成30年8月1日(水)～8月3日(金)

2. 視察先と調査項目

(1) 鹿児島県 鹿屋市柳谷集落 (8月1日 14:30～16:00)

ア 柳谷集落の取組について

(2) 福岡県 うきは市 (8月2日 13:30～15:00)

ア 地域経済分析システムを活用した取組について

(3) 佐賀県 武雄市 (8月3日 10:00～12:00)

ア 武雄市こども図書館について (館内視察を含む)

3. 参加者 10名 (総務文教委員会委員8名、同行1名、事務局随員1名)

①委員長 野藤 薫 ②副委員長 小川 稔宏

③委員 沖田 真治 ④委員 西川 真午 ⑤委員 永見 利久

⑥委員 佐々木 豊治 ⑦委員 道下 文男 ⑧委員 西田 清久

⑨同行 川神 裕司(議長) ⑩随員(議会事務局次長 篠原 修)

4. 視察内容等

(1) 鹿児島県 鹿屋市柳谷集落 (8月1日 14:30～16:00)

ア 柳谷集落(やねだん)の取組について

柳谷集落は、鹿児島県鹿屋市串良町にある人口278名(120世帯)。～行政に頼らない感動の地域づくり～を実現した地域再生の先進地である。

説明・案内：豊重哲郎氏(柳谷町内会長)

場所：柳谷自治公民館、わくわく運動遊園、土着菌センター 等

- ① 1996年、豊重哲郎氏は地域の特産品も特に無く、人口減少と耕作放棄地が増える一方の地域の現状からの再生を託され、行政に頼らない地域づくりの推進を始めた。
- ② 耕作放棄地を土着菌（竹山などに生息する好気性の糸状菌）を活用して土壌改良すべく初めは一人で活動をスタートしたが、動きに関心を持つ住民がほとんどなく、そこで地元高校生12名への声掛けにより共同作業をする中、今度はそれを見てられない農業者が手伝うようになり、やがて集落全体でサツマイモを栽培するに至った。（初年度の収益金35万円）
- ③ 豊重さんの活動に住民全体が協力的だった訳ではなく、強く反発する長老たちもおり、豊重さんが考えたのが、集落から都会に移住した子どもたちからメッセージをもらい、敬老の日や父・母の日に集落の有線放送で流すことだった。特に15年間音信不通だったある中心的長老の息子さんを探し出し、そのメッセージを高校生に代読してもらい有線で流したら、それを聞いた長老は涙を流しながら『お前には負けたよ』と握手をされた時の感動を話された。
- ④ 住民の絆が一挙に強まると活動にも広がりが出て、2001年から土着菌の製造販売も始め、これを家畜の飼料に混ぜることで糞尿から漂う悪臭の解消に成功した。
- ⑤ 2004年には、土着菌堆肥で栽培したサツマイモを材料に芋焼酎「やねだん」を商品化し、自主財源をさらに増加させた。
- ⑥ 2006年には、一部の住民に一万円のボーナスを支給し、現在では、年間約500万円の余剰金を生み出している。
- ⑦ 2006年、再生した空き家を「迎賓館」と名付けてアーティストの移住を促進する活動を始めている。5号館（住民憩いの場）、6号館（多目的工房）がある。
- ⑧ 2007年以降は、地域再生には「良きリーダー」・「良きコーディネーター」が必要不可欠で、特に企画力・演出（アドリブ）力・財務力そして「人間力」の養成は「一生の宝」になることから「リーダー」を養成するため「故郷創世塾」を年2回（5月・11月）に『3泊4日』で開催しており、2015年からは、超リーダーを養成する「故郷創世スーパー塾」も開講している。
「故郷創世塾」は、今までに23回開催して、卒業生は全国に985人誕生している。
- ⑨ 現在、自主財源の増加のために韓国との交流も行っており、芋焼酎「やねだん」の韓国への出荷や韓国からは健康遊具なども輸入している。
- ⑩ 豊重哲郎氏の言葉
 - ・地域づくりはみんなが主役、地域活動に補欠はいない。
 - ・一緒にやれば出来ないことはない。文化の感動。
 - ・「人間は勝手なもので人の批判は平気です」
 - ・町内会費制を止める。集めない代わりに奉仕⇒還元
 - ・集落単位の自立⇒集落と会社の経営は一緒（企業会計が原則）納税。
 - ・医療費や介護費が鹿屋市平均の56%。
 - ・反目者が出てジタバタするな。逆境も3～5年。急ぎ過ぎると犠牲者が出る。

【所感】

日本の田舎のどんな場所に住んでいても、人口の数だけではない。地域資源の多い少ないではない。都市部や他の自治体と比較して良いとか悪いとか言っている場合でもない。今、この地に生まれ育って、いつかこの地に恩返しが出来れば大変ありがたい。その過程で何をどのように考え、誰と一緒にどんなことが出来るのか、この地域の住民と何が共有出来るのか、しっかり前を向いて一歩ずつ動き出すだけ。人のため、地域のための想いの割合が多いほど、その過程で苦しみが深いほど、自分に返ってくる感動が大きい。“一人ひとりの人生づくり”が地域づくりだ！！。

豊重哲郎さんと接した2時間程度の間、共感の連続であった。柳谷自治公民館の内部や周辺の施設のどれを見ても、住民（人）の想いが溢れ出していた。

もう少し滞在すれば、夕方5時からコミュニティースクール「寺子屋」でピアノ教室が始まるところであった。これは学校の越権行為をしないように住民自治で地域に還元する活動の一環で、自然な空気感が素晴らしいと感じた。

(2) 福岡県 うきは市 (8月2日 13:30~15:00)

ア 地域経済分析システムを活用した取組について

RESAS (地域経済分析システム) とは

内閣府のまち・ひと・しごと創生本部が運用しているシステムである。地方創生の実現に向けて各都道府県・市区町村が客観的なデータに基づき、自らの地域の現状と課題を把握し「地方版総合戦略」の立案のために、経済産業省が開発を行ってきた「ビッグデータを活用した地域経済の見える化システム」にさまざまなデータを搭載し再構築されたシステムである。英語表記 (Regional Economy (and) Society Analyzing System) の略で“RESAS” (リーサス) という。RESASは2016年11月現在、産業マップ、地域経済循環マップ、農林水産業マップ、観光マップ、人口マップ、消費マップ、自治体比較マップの7つで構成されている。

① うきは市の取組概要

地方版総合戦略の策定や、創業支援等の具体的な施策展開において RESAS を積極的に活用。

- ・副市長が率先して、RESAS 活用検討会の開催や分析結果の職員間での共有等を実施。外部に委託することなく、RESAS を活用して職員自らが地方版総合戦略「うきは市ルネッサンス戦略」を策定。

② 具体的な施策展開にも RESAS を活用。

- ・(創業支援) RESAS のデータで、飲食料品の経営者の年齢が若いことを確認。デザイン力向上などの創業支援セミナーで、意欲ある若者を後押し。女性を対象としたセミナー実施等。
- ・(観光戦略) RESAS による人口流動データにより、福岡都市圏に加え、日田市、鳥栖市、佐賀市、大分市など東西方向からの入込が多いことが判明。観光情報発信の対象地域を見直し。

③ 中学校においても、RESAS データを用いて身近な地域を調査する授業を実施。RESAS を活用し、生徒自らが地域の農業等について分析・発表。



【視察内容】

副議長江藤芳光氏から歓迎のご挨拶を受けた後、うきは市ブランド推進課商工振興係長石井健太郎氏より RESAS を活用した具体的な取組について詳細な説明を受けた。

(1) うきは市の概要

福岡県うきは市は平成 17 年 2 町が合併した、人口 29,962 人、面積 117.46 ㎢の半分以上が森林で、平野は農業地帯でフルーツ王国とも呼ばれ、福岡市から 1 時間の位置する、日本の原風景が残る市である。

(2) うきは市における RESAS の活用

地方創生の肝は 2060 年に日本の人口が 1 億人を切るといわれており、1 億人をキープするために地方が頑張り東京一極集中を防ぐ、「まち・ひと・しごと」をやっていくことが根幹。

ア 施策への活用

① 戦略の概要

平成 27 年 9 月 8 日策定。その間、庁内会議の運営、産官学金労言参加の協議会運営、うきは市民大学運営、議会勉強会運営、市民意識調査を実施。

② 短時間での策定の背景

RESAS の活用により現況分析を効率化し、コンサルに委託せずほぼ庁内で作成。

③ うきは市ルネッサンス戦略検討体制

市長をヘッドとする「うきは市ルネッサンス戦略検討本部」と、産官学金労言、市民からなる庁外組織「うきは市ルネッサンス戦略推進協議会」があるが、「うきは市ルネッサンス戦略推進協議会」が中心となり戦略が作られた。

④ 地方人口ビジョン (RESAS 実装データから)

- ・ 老年人口、生産年齢人口、年少人口 2010 年と 2040 年との比較
- ・ 人口推計 (2060 年) パターン 1、2。シミュレーション 1、2。

⑤ 地方版総合戦略での活用

- ・ 人口流出：20 歳代、40 歳代等年代別、転出先、転出の割合は RESAS から簡単にとれるが、就学・就職、転職の影響、教育環境の問題等は他のデータと照らし合わせ検証。⇒ 総合戦略へ課題としてのせる。
- ・ 人口動態に及ぼす影響：(2040 年) 社会増減の影響度と自然増減の影響度からうきは市では、社会増減 > 自然増減、社会増減注視しアプローチ。
- ・ 産業別従業者数：製造業が全国平均より多いことがわかる。
- ・ 製造業中分類別従業者数：金属製品製造業、製材業が多いまちとわかり、ここへのアプローチで恩恵を受ける人も多いことが見えてくる。

イ 「地域総合商社」(DMO 含む) 立上げに向けた活用

RESAS データから地域経済の課題が見えてくる。

[人口] 福岡市・久留米市等へ流失

[所得] 1 人当たり所得額 県内 25 位 (28 市のうち)

[財政] 財政力指数 県内 26 位 (28 市のうち)

[創業] 創業比率 県内 27 位 (28 市のうち)

[経済循環] 地域経済循環率 69.9% (GDP)

[消費額] 域内消費額 865 円/人 (観光客 1 人当たり)

地域内の経済循環を高めるためには①市外から外貨を稼ぐこと+②稼いだ外貨を市外へ出さないこと、そのため、うきは市には「地域総合商社」が必要と結論付けた。

ウ 加速化交付金活用事業 (平成 28 年度)

うきは地域総合商社設立による“外貨を稼ぐ地域づくり”及び創業支援による“仕事づくり”プロジェクトを立上げた。

① 「地域総合商社」うきは域外消費拡大戦略を推進

- ・桃やぶどう、柿等の 1 次産品の高付加価値化、販路拡大
- ・フルーツを原料とした加工品の企画・開発・販売
- ・体験型観光等の旅行商品の造成・販売・管理
- ・アンテナショップへの商品供給等

② 重点道の駅整備

「道の駅うきは」は、じゃらん九州の道の駅ランキングで 2 年目に 1 位になり、去年、今年と「道の駅むなかた」に勝っている。

③ 事業スキーム

うきはの里 (株) 道の駅うきは運営母体 (三セク) では既存部門に加え、営業推進部を創設。外販先の開拓、観光客へも営業。待ちの姿勢から外へ出て売っていく。「地域総合商社」機能の中心として作る。新規創業者、移住者等による新商品開発も営業推進本部でまとめる。

※ 地域総合商社は、元みずほ総研の副市長中心に RESAS から出てきた弱点をカバーするための事業として生み出された。

(3) 学校教育での活用

[現場] うきは市立浮羽中学校 2 年生 地理

[テーマ] 身近な地域の調査

[目標感] RESAS を活用し、うきは市の農業に関わる問題点を生徒自らが分析し、農業の活性化と農業を活かした、うきは市の魅力づくりについて考える。

ステップ 1

RESAS のデータを提示し、図から読み取れることを検討。

⇒農林水産マップ 農業花火図 農業部門別販売金額 2005 年、2010 年比較
意見交換し気づいた点をメモ。

ステップ 2

指摘された背景について生徒から仮説を提案させ、それを検証させるためのデータを追加。

⇒人口マップ、人口構成、人口推移

⇒農林水産マップ 農地分析 経営耕地面積

ステップ 3

農業の活性化、うきはの魅力をアピールするための考えを「手紙」という形でまと

める。

⇒さらに資料追加 観光マップ 目的地分析

※庁内でやってきたことを学校で落とし込んだ。RESAS のデータを使って自分達のまちを知ろう。

(4) RESAS の普及を図るために

ア 自ら使う

イ 国などの事業を活用

ウ 会議での検討素材として活用

エ 興味を持ちそうな職員を狙う

オ 対外的に注目されていることをアピール

カ 首長への刷り込み

政策の妥当性に対する裏付けとして活用

・中小企業振興

・地場産業振興

キ 外部の巻き込み

・市内団体 商工会、観光協会、青年会議所

・学校関係 高校、小中学校

【質疑応答】

質問 浜田市の地域経済循環率について、コンビニが乱立し、大型店、ホームセンター等があり市外の本部に流出している。

回答 2013年データでは島根県 83.6%、浜田市 86.4%、付加価値率で3次産業の数字が高い。地域外からの所得流入が多い。

質問 道の駅むなかたに勝ったことについて。

回答 売り上げだけでは負けているが、フルーツ狩りや温泉があり1日楽しめるという総合評価だろう。

質問 営業推進部の人材はどこから登用されているか。

回答 コンサル会社、銀行OB、地域おこし協力隊や地域おこし企業人制度等。

質問 中学生のRESASはまちづくり育成に良い取組。効果、実績について。

回答 商工振興係のメイン事業は創業支援だがU・Iターン、特にUターンが3年間ですごく増えた。「自分の町が好き、いつかは戻りたい」という気持ちを持っていてくれた。戻らなくても、うきはを忘れずにいてくれる子はアプローチしてくれる。そういう人材を1人でも2人でも作ることが地方創生の肝。起業家精神が大事で終身雇用ははやらない。

質問 1人あたりの所得額上がっていることの分析と独自施策について。

回答 全国規模（最低賃金）で上がっていると理解している。基幹産業は農業と捉え総合商社等に結びついており農家所得を上げていくこと。

質問 商工会へのデータ提供や研修会等の開催について。

回答 商工振興課ブランド推進係と商工会は同じ建物の中に居て、毎週木曜日に1時間ミーティングをし、事業所訪問等も一緒にやっている。課長は九州産業局からの出向者で、補助金の情報とか国の施策などリーク、補助金申請や研修会も一緒にしている。

質問 小規模持続化助成金の活用状況について。

回答 18分の15の採択数。1回だけで15億円くらい。規模は商工会会員800、全事業者数1000強だから商工会は優秀。経産省との人事交流が大きい。

質問 全ての課でRESASが利用されているか。

回答 全部の課ではない。先進的な動きをみせたい課には積極的な活用を促し地方創生交付金申請の相談等あれば資料を渡している。副市長が東京に戻ってからは自分達が引継ぎ、必要な部署では使い回している。

質問 観光関係での活用について。

回答 観光マップの目的地分析をよく使う。福岡都市圏から大分の温泉地に行く途中の町。道の駅うきはに来る方が多く、ここを起点にDMOの拠点も作りレンタサイクル、イートインゾーン等の仕掛けをしている。

質問 議会でRESASをどのように使っているか。

回答 4月の改選でかなり若返り今後期待している。27、28年RESAS使って頑張れと言っていた元ブランド推進課長が議員になった。これから活用が増えると思う。

質問 RESASの研究、研修、データの取り方について。

回答 出来たばかりの時期に、内閣府にお願いしRESASを作った人にきてもらい、その後内閣府の方と一緒に勉強した。

質問 政策に反映させる材料がつかめ、事業の裏付けをデータによって理解させていける可能性について。

回答 施策は市長がやりたいからやるのではなく、現状を分析した中で課題が見えてくる。課題に対して何をするかだ。弱点があればつぶしていく、長所は伸ばしていくという発想があれば、データ分析から始まると思う。そこでRESASが活躍する。

質問 外部の取組について、どんな取組をすれば食いつき、まちのために汗を流すことにつながるだろうか。

回答 商工会とのネットワーク、コミュニケーションを大事にしている。ブランド推進課出来た平成 28 年に同じ建物に引越し関係が密になった。それまで接点がなかったが週 1 回ミーティングで相手の動きも見え、お互いの施策をそれぞれの広報誌に載せたり、セミナーも一緒に開催するなど良い関係を築けている。

【所感】

これまで「RESAS（リーサス）」に接する機会は少なく、市議会においても認知度は高くなかったが、視察をきっかけにその存在意義と利用可能性を認識することが出来た。うきは市では吉岡副市長の招へいや情熱をもった担当者の存在が取組の推進力になっているなど条件の違いはあるものの、市の総合戦略策定においてもコンサルに頼らず策定できる力量を有しているものと思われた。RESAS データは地域課題を明らかにするために役立つほか、施策や事業実施の必要性や根拠を経験上の思いや直感等で説明するのではなく、具体的データで示すこと説得力が増すとのことであった。

また、中学校授業での活用では、子どもたちに町の姿をキッチンと示し考えてもらうこと通して、産業、観光振興への関心を持ってもらうだけでなく、創業やUターンの増加にもつながっていることは特筆すべき効果といえる。

RESAS は宝の山ではあるが、活用には分析力が不可欠であり相応の研究が必要と思われた。まずは議員自らが活用するとともに、様々な分野で、地域課題の見える化や政策提言に RESAS が活用されることを期待したい。



(3) 佐賀県 武雄市 (8月3日 10:00~12:00)

ア 武雄市子ども図書館について (館内視察を含む)

① 佐賀県武雄市の概要

- ・平成18年3月 武雄市・山内町・北方町が新設合併し、武雄市が誕生
- ・人口 49,062人 (H27 国勢調査)
- ・議員数 20名 (条例定数 20名)
- ・一般会計予算 234億2723万円

(市と地勢)

武雄市は、東経130度1分、北緯33度11分の佐賀県の西南部に位置し、東西19.4km南北18.4km、面積195.40km²の杵藤地区広域市町村圏域の中心都市となっている。地勢は、市の北端八幡岳に源をおく川古川、西の黒髪山から流れる松浦川で、山内・武内・若木地区の盆地を形成し、また神六山に源をおく潮見川は六角川にそそぎ、川澄盆地をつくっている。

また本市の中央を東西に横切って流れる武雄川、武雄・朝日地区を流れる甘久川、朝日地区を縦断する高橋川も橘町北端で六角川に六角川に合流して武雄・北方地方の盆地を形成し、白石平野と連なり、土地は肥沃で本市の穀倉地帯となっている。



② 視察の内容

- ・日時 平成30年8月3日 (金)
- ・場所 武雄市図書館
佐賀県武雄市武雄町大字武雄5304番地1
- ・開館日 2012年10月1日
- ・総事業費 4.9億円 (建設費3.9億円)
- ・所蔵冊数 20,000冊 CD、DVD1000枚
- ・視察内容 武雄市図書館の運営について
(武雄図書館の概要)

武雄市図書館は、平成25年4月にリニューアルオープンし、年35日あった休館日をなくし9時から21時まで開館しており、立地条件は市内中心地の大規模ショッピングセンター「ゆめタウン」の道向かいに位置し、車でのアクセスも便利。大手レンタルソフト店TSUTAYAを運営する企業が指定管理者(CCC:カルチャー・コンビニエンス・クラブ)になったことで注目を浴びた平成25年の92万人の来館者をピークに過去3年間で13.2%の減少が続いていたが、平成29年10月より「武雄市子ども図書館」がオープン、県内外からの来館者も増え、平成30年は100万人の目標に到達する見込みである。



③ 指定管理制度導入前の課題

- ・ 来館者の伸び悩み、利用者の固定化
- ・ 特に子育て世代（30～40代）の利用の難しさ
- ・ 講座・イベントのノウハウ不足
- ・ 限られた人員、運営予算（増員、増額は困難）

図書館は、まちづくりの核（エンジン）になれるのでは、

行政 or 民間事業者との連携を模索

市民の豊かな生活を実現するための、中核的施設として、武雄図書館・歴史資料館をより市民価値の高い施設として運営するにあたり、CCCが運営する「代官山 蔦屋書店」のコンセプトやノウハウを導入し企画する。そのための重要な手段として付属事業を展開する。

その構想に対して、本来の図書館のあるべき姿ではないとの反対もあったが、「代官山 蔦屋書店の雰囲気を出せることが他にあるのか。」当時の、樋渡市長の強い思いを十分に伝え、市民と議会での理解を得て「新しい公共施設」新しい図書館づくりの構想実現のために、武雄市は、指名（非公募）で指定管理者（CCC）と提携することを決断した。

④ 指定管理制度による図書館づくりの進め方

- ・ 組む相手（指定管理業者）を決める→議会での承認
- ・ 運営、サービス内容（ノウハウ、アイデア）の提案
- ・ サービス内容について、住民アンケートを実施
- ・ アンケート（住民の声）を尊重し、リニューアルのための設計に着手
- ・ 必要な予算を確保（工事費、システム更新など）
- ・ 改修工事、新図書館への移行作業を実施

※構想段階から民間と連携、住民の意見を尊重した図書館
行政でできなければ、民間の力で

⑤ 武雄市図書館のコンセプト 市民の生活をより豊かにする。

- ・ 20万冊の本を直接手に取ることが出来る。
- ・ 館内に蔦屋書店が併設され雑誌を買うことが出来る映画・音楽のDVD・CDがレンタルできる。
- ・ 図書館の中にスターバックスがあり、読書しながら、コーヒーと本が一緒に楽しめる
- ・ Tカードが、図書利用カードとして使える。図書を借りると、Tポイントがつく。



- ・ipad が 60 分無料で借りられる。
- ・多目的スペース（シェアルーム）新設
中学生・高校生→第2学習室
ビジネスマン→ワークスペース
同じフロアを共有することで
働く姿を見せる。



⑥ 武雄市図書館は提案型 ライフスタイル提案

- ・本の分類方法（独自のジャンル分け）
- ・館内配架の工夫 大きな3つの箱（書架）新たな発見へ繋げる本の見せ方
図書館では、ライフスタイルの大きなテーマとして、暮らし方（料理）楽しみ方（旅行）生き方（人文）を軸に、3つの大きな書架を設けています。
- ・講座、イベントの見せる化（活動している風景が見え、人の活動が人に影響を与える）

講座・WS・イベント開催を重視

（2017年度）・開催回数 981回

・参加者数 40,577人

※2018年度～年間1,700回の開催を目標

- ・読み聞かせ講座（ボランティア・司書）
- ・著名人による講演会・乙武洋匡・堀江貴文・林真理子・著名絵本作家など
- ・シーズン系イベント
- ・マルシェ

⑦ 武雄市子ども図書館のコンセプト こどもと家族の生活豊かにする図書館＝家のような図書館

- ・フードコート 武雄の食材も楽しめる
- ・アートウォール 武雄の大楠をモチーフにした巨大壁画
- ・えほん山 こどもの知的好奇心を育むえほんのやま
- ・おはなしラボ お話研究所
- ・プレイ&ワークスペース

こどもの創造性を育む場武雄の豊かな自然の中にたたずむ、武雄市子ども図書館。芝生の施された広場や木を効果的に使用した建築は、御船山（みふねやま）の映える景観に調和している。



⑧ 建設の特徴

- ・仕切りのないオープン空間

- ・子どもの好奇心を育むフロア設計
- ・どこでも講座やイベントができるフレキシブルな仕掛け



【質疑応答】

回答者 武雄市図書館 溝上館長

質問 年中無休で、9時から21時までの運営の勤務シフトは何名くらいで行っているのか。

回答 市の直営で運営していたころは、年間35日の休館日があり、正職員3名、嘱託職員12名行っていた。現在では、市職員は0名、図書館職員33名その他レンタル、スタバなどの職員をすべて合わせると約60名で2交代シフトを組んで運営している。

質問 セルフカウンターでの返却でのポイント制や、各イベントなど企画はだれが主体なのか。

回答 基本的には、図書館司書だがCCC本社の企画部から4人前後の企画スタッフが定期的にアドバイスしてもらっている。全国に6か所あるCCCが運営しているところの成功事例を、そのままの企画を行うこともある。

質問 かつて、武雄市には教育委員会とは別に、行政組織の中に「こども部」と「教育部」があって、子育て支援に特化しておられたが現在の市でも子育てに特化しているのか。

回答 現在「こども部」「教育部」は教育委員会統合している。理由は「子育て支援ができていない」かであり、かつては全体予算の3割を子育て・教育に費やしてきたが、来年からは高齢者向けの施策に軸足をおくことになっており、図書館としても高齢者施設に本棚や眼鏡を図書館の予算から捻出したりしており、高齢者向けの企画も充実を図る。



質問 従来の図書館像は、資料をそろえる「静かな知の場所」であり、それとはかけ離れた部分もあり、かなりの反対意見もあったのではないのか。

回答 当然、賛否はあるが、今の武雄図書館の運営が順調なため、本の購入予算も1200万から1500万円に増額ができ、資料も大幅に増えた。図書館司書の能力も知識も向上してきており、本来の図書館としての機能の充実が図られている。どうしても新しい部分の話題が先行しがちではあるが、「静かな知の場所」としての

スペースも確保してある。歴史資料館も併設しており、武雄図書館は多様性に富んだ図書館であると考えている。

質問 浜田市でも「仮称、歴史資料館」の建設を検討している。武雄市は図書館と併設で資料館があり、館長も兼務されている。館長としての所管を伺う。

回答 武雄市は当時、歴史資料を所蔵しているスペースが手狭であり、展示できる資料館が欲しかった。同時に図書館も建て替えたことから図書館と資料館が併設となった。当時は大部分が歴史資料館のスペースだった。しかし武雄市の所蔵する多くが国の重要文化財であるがために、限られた日数しか展示できないため、レプリカを展示していたが、価値がないためほとんど来場者が来ない状態。そのスペースが市民のニーズにより図書館スペースに変わって、現在の武雄図書館に至った。

質問 浜田市では、各小学校に図書館司書が居り、学校図書館で授業を受けられるようになっている。武雄市の学校図書館の状況を伺う。

回答 武雄市では、市内の全小中学生に「タブレット」を無料配布した。その時に多額の予算を投じた。そのために予算がないために司書は配置できていない。今は1年契約3年上限の給食費の徴収業務を兼務している。職員が司書の代わりに務めていてくれるが司書資格がないため、武雄市図書館の司書が学校に出向いている。市としては今後の課題である。

質問 来館者は武雄市の市民が多いのか。県外の来館者はどのくらいいるのか。

回答 データーはないが、図書館の駐車場に止まっている車のナンバープレートを職員が定期的にチェックしており、平日は約6割が市内・県内で週末になると、7～8割が県外ナンバーである。他県からの来館者への本の貸し出しにも、宅配業務を行う会社と提携しており全国一律500円で返却できるサービスを行っている。

質問 武雄市は、教育に多額の予算を投じており、こども図書館などこどもの学びに特化し学力が向上することにより、都会地へ出ていく傾向が問題になってきているが現状は。

回答 人口減少は武雄市でも顕著であり、取り組むべき課題。質問の答えとは違いかもかもしれないが武雄市はここ近年移住者が増えてきている、一般的な移住者がその町を選ぶ理由に病院、図書館、教育の充実。武雄市を選んできた理由の大部分は、武雄には図書館がある。教育が充実している。若い移住者が図書館のシェアルームでパソコンを使って仕事をしている姿が多くなってきた。同じシェアルームで勉強している中高生がその姿を見て、武雄でもパソコンさえあれば仕事ができる。いつの日か都会に出た子どもがそのことを思い出して、帰ってくれるきっかけになればと思っている。

【所管】

武雄図書館には県外からも視察が多いのは来てみて理解した。

浜田のこどもたちと話をしていると「浜田って何もないじゃん」とよく聞く。浜田にも図書館はあるよ。肝心なのは中身なのかな？武雄市図書館は中身を優れたノウハウを持つ会社に委託したからできた。その要素が大きいけど、市のトップの情熱「市民生活をより豊かにする」をコンセプトに官民一体で作上げた武雄市図書館、そのノウハウは今後の管理のあり方として大いに見習うべきである。



武雄市のシンボルでもある「樹齢3000年と言われる大楠木」をモチーフにした巨大壁画が、こども図書館に飾られていた。温かみのある絵でとても印象的だった。



